（別紙様式）

令和６年度かながわ学びづくり実践研究推進校　実践報告

寒川町立寒川小学校

研究テーマ：やりたい気持ちがあふれる子どもの育成
～「はてな・なるほど・だったら」の授業づくりを通して～

１　実践の目的

本校の研究は今年で３年目になり、「はてな・なるほど・だったら」の授業づくりを続けてきたことで、授業力の高まりを感じられる。今年度は、昨年度の「なるほど（本時で身につけたい力）」の共通理解が曖昧になってしまったという課題を改善することをスタートとして研究に取り組んでいった。「なるほど」を全体でしっかり押さえることで、児童の自然な思考に沿った「だったら（新たな発問）」へつながっていくと考えている。本研究で目指す児童像「楽しむ・見つける・活用する子」を育てていくために、研究を続けている。

２　実践の内容

＜本校の今年度の重点的な実践＞

①子どもの「なるほど」に結びつくような「はてな」を考え、本時で身につけさせたい力の定着をねらう。

②数学的な見方・考え方を働かせるためのキャラクター「みかたん」の活用方法を職員全員で改めて確認をし、本単元で重要な着眼点を明確にした授業実践に取り組んだ。

③研究授業以外でも実践をした板書の画像や子どもたちのノート画像を用いて「たてわり部会」や「先生、スタイルの会」などで共有を行い、「みかたん」の活用方法やお互いの指導方法などを学ぶ機会を設け、学校全体の授業力向上を目指した。

＜講師招聘の内容＞

明星大学客員教授兼明星小学校長の細水保宏先生を招聘し、講演会を開催した。以下は講演会の内容である。

〇算数のよさや美しさ、考える楽しさを味わう授業づくりを行うためには、次のことを教師が意識することが大切。

①考えたくなる、表現したくなる場を創る。

②考えてよかった、表現してよかったと感じる場を創る。

③相手を意識して表現する力を育てる。

④教師自身が算数・数学を楽しむ心を持って授業する。

＜研究協議の内容＞

各学年１回、細水先生と河合先生を招いて授業研究を行った。今年度は新しい試み「パネラー方式」で協議会を行い、パネラーから「本時のはてなは簡単すぎたのでは？」「だったらのところが本時のはてなでもよかったのでは？」など、協議の柱となる意見が出され、そのことについて司会を中心にパネラー、授業者、フロアーの全員で追究していった。協議後、本日の授業

とともに協議会の持ち方についても、細水保宏先生から指導・講評をいただいた。

3　実践の成果と課題

＜学年の成果＞

- 子どもたちが本時の学習を習得するために、子どもの言葉をひろって本時の「はてな」を作り、話をつなげて「なるほど」に結びついた。
- 算数と生活を結びつけるために、日常の身近にあるものから教材を活用していたのがよかった。
- 図形領域ではロイロノートを活用したことで、自考の時間や共有の時間を多く確保することができた。
- 課題を解決するための手立てとして、数学的な見方・考え方を視覚化した「みかたん」を効果的に活用することができた。
- 既習したことを活用（ノートの活用）し、課題に対する考えの手立てとすることができるようになった。
- ノート指導が丁寧であり、本時の課題解決の手立てとなるような素地がつくられていた。

＜全体の成果＞

①今年度は特に「なるほど」に重点を置いて授業づくりや教材研究に取り組み、児童が「やりたい！」と思える発問や場面・課題の設定に力を注ぐことができた。その結果、児童の意欲向上を感じることができた。

②教師側が「みかたん」を意識して活用したことで、児童が課題解決のために「数学的な見方・考え方」に着目するようになってきた。

③言語活動が充実し、考える力の向上が見られた。「話し方」や「聞き方」について全校で統一した目標を設定し、指導してきたことで、児童が安心して発言できるようになり、活発な意見交流を行うことができた。その結果、多様な考えに触れ、それぞれの考えの共通点や相違点、妥当性等について深く考える姿勢を養うことができた。また、教師側も「たてわり部会」や「先生、スタイルの会」を定期的に開催したことで、「みかたん」の活用方法の共有やノート指導共有、先生方の発問の仕方や発言の拾い方など、多くのことを学びながら闊達な意見交流を行うことができた。

4　今後の展開

①日常生活に算数が溢れていることに気づいている子どもたちが増えてきたことはアンケートから実感ができるが、その「有用性」に気づいている児童は少ない。算数の有用性に子どもたちが気づけるようにするためにも、教師自身が日常生活に溢れている算数に着目し、「はてな」「だったら」を引き出す授業づくりを行っていく。

②知識の定着を図るために、「e ライブラリ」や「朝算」に取り組んできたが、まだまだ定着には至っていないのが現状である。忘却曲線を意識した繰り返し学習への取り組みや家庭と連携をした家庭学習の仕組みづくりを整えていく必要があると考える。また、ノートで学んだことを確認することを子どもたちが自然と自主的に行えるようになることも知識の定着につながるので、今後もノート指導の徹底に取り組んでいく。